

主の御名を賛美します。

『わがたましいよ。主をほめたたえよ。主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな。』

(詩篇 103:2)

渡波の浜風はまだ冷たいのですが、桜も咲き、ほかの花々も次々に花開いています。

最初の冬に、「ここは雪が降っても、次の日には解けているから大丈夫だよ。」と聞きました。ところが、今年は、恵みの雨ならぬ恵みの大雪になりました。久しぶりに、1日に3回雪かきをしましたが、皆様の所ではいかがでしたでしょうか。

大雪をもたらした神様は、今年、どんなことをなさるのか、思いめぐらしていたところに、突然大きなプレゼントが届いたのです。そのビッグプレゼント「1」の知らせが届いたのは、3・11に向けて「キャサリン・ポーター ハープ希望のコンサート」の準備をしている最中でした。それは、3月10日(土)に南三陸で行われる宮城三陸3.11東



日本大震災追悼記念会「愛と希望のコンサート」でご奉仕される森祐理さんが、その前日の3月9日(金)午後の時間に、教会で被災者の方々の為にコンサートをしてくださる、という内容でした。

3月9日、10日と二日続けてのコンサートは、正直「難しい」と思いましたが、マタイ5:37のみことば、『はい』は『はい』に押し出され、すべて主の御手に委ねることにしました。神様は二日連続のコンサートを祝福してくださり、森祐理コンサートには50名、キャサリン・ポーターコンサートには56名の方々が集われました。更に2月になってビッグプレゼント「2」が届きました。こちらは、川口EFCと草加EFCが、4月5日(木)に、こどもからお年寄りまで楽しめる「石巻イースターフェスティバル」を行ってくださるという知らせでした。

主は、この年、どんな1年にしてくださるのでしょうか、楽しみに期待したいと思います。

さて、2013年1月から始まった「石巻宣教ミニストーリー」も今年の3月をもって終了し、この報告も最後となります。この5年間、多くの尊い献げものと篤い祈りによるご支援を賜り、心から感謝致します。2018年4月からは、「石巻宣教支援会」となり再スタートします。

今後ともご支援をどうかよろしくお願い申し上げます。

### お茶っこ会《森祐理》春のコンサート

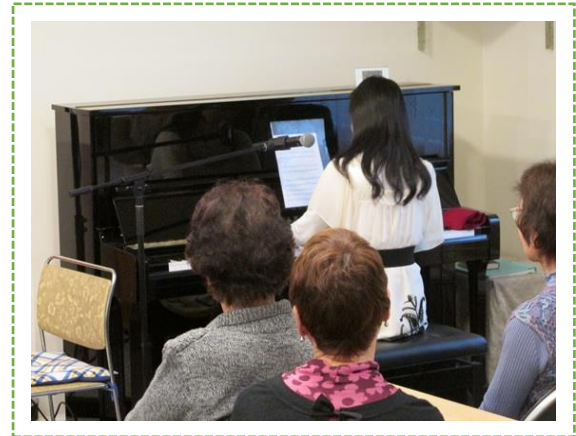
高橋勝義

揺れ動く地に立ちて、なお十字架は輝けり♪ (聖歌 397)

1995年1月の阪神・淡路大震災で森祐理さんは、最愛の弟さんを天に送られました。「23年経っても心の傷は癒えません。でも、生かされていることには意味があるのです。その使命に向かってともに生きていきましょう。」とご自身の経験から力強く語って下さいました。

そして、各テーブルを回りながら、顔と顔を合わせ、手を握り、肩に手を置き、語りかけるように歌っていただきました。この語りかけに、涙する方もおられました。

コンサートではピアノを弾きながら歌うことは、ほとんどないと聞いています。しかし、この日は、ピアノを弾きながら、聖歌 397 番を賛美していただきました。会場の雰囲気は、皆さんの心が一つになっているように感じました。時が過ぎる中で、あの 3・11 の記憶は薄れていきますが、悲しみは消えるわけではありません。神の愛が、お一人一人に届き、神様にある希望に向かって歩まれることを切に願っています。



## キャサリン・ポーター《ハーフ希望のコンサート》

高橋勝義

「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。」(イザヤ 43 : 4)

キャサリンさんは震災当時、短期宣教師として京都におられました。すぐに岩手でボランティア活動をされました。そして、被災地に住むことの必要を覚え、長期宣教師となり宮古に移住、被災者に寄り添いながら神様の愛を伝えておられます。彼女は大学卒業後ハープ奏者としてイギリスで活躍されていました。しかし、演奏家として更に認められたいと練習に打ち込み、頑張り、うつ病になってしまったのだそうです。何のために生きているのかわからなくなってしまったある日曜日、教会で、ありのままの自分を愛してくださる神様に触れられ、生きる力がわいてきたのだそうです。そして音楽家から神様のために働く宣教師となりました。



コンサートは「アメージンググレース」から始まり「さくらさくら」そして、「愛燦燦」や「川の流れのように」も演奏していただき、最後の「ヴィアドロローサ」まで全 11 曲。そのハープの音色は優しく、時に力強く、語られる正直なお証しは集われた方々の心に響きました。また、大きなハープを華奢なキャサリンさんが車に乗せておひとりでお来られたことに驚き、親しみを覚えておられるようでした。ありのままを愛していただき、私たちの罪のために

死んでくださったイエス様を、この地の方々が信じ、救われますように続けてお祈りください。

3月15日は、石巻井内のバイパス東仮設で行う「最後のクラフト教室」となりました。仮設の皆様からのご提案で、「お茶会」を行うことにしました。

最初は、唱歌や懐かしい歌を歌いました。「四季のうた」、「かっこう」の輪唱、そして「思い出のアルバム」「今日の日はさようなら」。大きな声で、気持ちを込めて歌っていただきました。楽しい振り付けの体操で身体をほぐした後、脳トレ「難読漢字クイズ・お魚編」にチャレンジしました。さすがお魚の町、女川の方々、ほとんど正解でした。

心も体もほぐれた後、3月10日に石巻福音自由教会で行われた「希望のコンサート」のCDから、キャサリン・ポーターさんのハープの演奏「さくらさくら」と信仰の証しを聞いていただきました。キャサリンさんの飾らない真実な証しと力強い演奏にじっと耳を傾けていただきました。

昼食のお弁当を頂きながら、テーブルごとに歓談の時を持ちました。この7年間の様々なことを思い出して、涙ぐんでいる方もおられました。あっという間の7年。今、新しい歩みが、やっと始まったばかりです。いろいろなことが、まだまだ整理されないまま、心の中にしまったままの方がほとんどです。心の復興、本当の癒しはこれからだと強く思われました。6年半、住み慣れた仮設住宅、皆で集まった集会所も3月で閉じられます。思いがけず、「ここの生活は楽しかった」という声も聞かれました。これから再スタートとなる石巻教会での「クラフト教室」のことも楽しみにしてくださっているようでした。教会が、被災された方々の心の拠り所となりますように、神様の愛が、お一人お一人の心に届いて、信じる心を起こさせてくださいますように。

2012年、蕨福音自由教会の兄姉が支援活動に来てくださった時、米国福音自由教会の宣教師ギルバート夫妻やロング夫妻と共に、主に導かれるようにして、この仮設を訪れていただきました。その後、間もなくここで知りあった方を通して両宣教師によるクラフト教室が始められたのです。2年後、一次的に帰国しなければならなくなった両宣教師に代わって、仙台福音自由教会のパッチワーク教室のメンバーが引き継ぎ、4年間クラフト教室を続けることができました。初めは聖書の話はあまり自由に話せない雰囲気がありましたが、徐々に信仰の話もできるようになりました。多くの方々の篤い祈りとご支援に支えられたことを心から感謝致します。

4月からは、石巻福音自由教会に場所を移して、クラフト教室が行えるようになったことを感謝致します。引き続き、集まってくださる方々の魂の救いのために、また、奉仕者が整えられて心から仕えることができますようにお祈り頂けたら幸いです。よろしくお願い致します。

